

ゾンネンハイム北砂自治会の歩み

H18 12月 住民の方から「一人暮らしの女性の横のつながりを広げたいと活動しているが、自分たちでは限界がある。自治会に協力してもらえないか」との申し出があり、自治会として協力することにし、敬老の日にお祝いを配布した方にお誘いの文書を出すことにした。

H19 2月 第一回「お茶の会」を和室で開催した。(出席者から、和室ではひざが痛くて座れない等の意見があり、以降は集会室で開くこととした。)

4月 健康体操教室 6月 管内犯罪事情講演 7月 盆踊り教室

H20 6月 防災教室 (出席者の固定化が問題点として指摘された、集会室のイスの具合が悪く1時間座ってられない、机が高すぎるとの意見が出た)

H21 3月 ゴミ分別方法変更説明会 (その後お茶の会)

11月 アンケート結果を踏まえて名称を「ふれあいカフェ」にした。(お茶の会では、茶道の会と間違えている人が多い由)

H22 5月 住民から「継続して続けてほしい」との声に答えられないでいる現状から、何らかのテコ入れが必要ということで、江東区「地域で見守りサポート地域活動実践発表会」(4集合住宅の体験報告)に参加

5月 江東区 H22 年度のサポート地域に応募し、選定された。

6月 在宅介護支援センターの役割について 講演

6月 当該事業の進め方について、江東区福祉部3名 南砂地域包括支援センター1名 在宅介護支援センター(寿園)2名 民生委員 の方をお迎えして、集会室にて第一回打ち合わせを行った。(江東区の支援事業の目的・意図は、高齢者、一人暮らしの人の社会的孤立・孤独死を防ぐための地域の取り組みをサポートすることである)自治会としても、いざという時にゾンネンハイムの中に「置き去りにされる人」「存在に気がつかない人」をなくしたい、少なくとも、なくすために行動したいと考えた。

7月 サポート事業部を新たに創設した。

7月 江東区支援：松戸市常盤平団地 見学、孤独死ゼロの取り組みについての講演後、見守りの拠点「いきいきサロン」の見学

8月 江東区支援：「孤独死も防げる 住民流見守り術」セミナー参加。

- 孤独死は社会的孤立から始まる。(隣近所との付き合いが全くない等)
- 社会的孤立はいざという時に、周りの人から「忘れられてしまう人」につながる。誰にも「思い出してもらえない人」は置き去りになってしまう。
- 孤独死は避けられないことだとしても、早期発見早期対応が隣近所に住む人の役割、愛情である。
- 「住民情報の確保 (支えあいマップ作成)」「支えあい・見守りの拠点づくり」が次のステップである。

9月 城東消防署「救急車 Q&A」講演

9月 江東区支援：「支えあいマップづくり」を住民流福祉総合研究所 所長 木原 孝久氏の指導で実施した。

10月 江東区支援：「支えあいマップのフォローアップ」として、マップから見たゾンネンハイムの問題点等を、住民流福祉総合研究所 所長 木原孝久氏の指導で討論した。

ゾンネンハイムの中に一人暮らしの人、あるいは助けを必要としている人がどの程度いるかの現況の把握。見守りネットワークの拠点としてのサロンの設置がまずやるべきこととの結論だった。仮に来る人が固定化したとしても継続することが大切との由。

10月 コープ南砂「ふれあい喫茶室」見学

11月 現況の把握については、居住者カードを配布回収することになるが、その内容・方法については防災部とも相談しながら進めることにして、見守り拠点としての「ふれあいカフェ」の設置を、まずは理事会にお願いすることにした。

常盤平団地「いきいきサロン」お正月を除いて毎日開催
コープ南砂「ふれあい喫茶室」毎週1回開催

ゾンネンハイム「ふれあいカフェ」月に2回開催 (予定)

ゾンネンハイムに住むお年寄りの方の中には、ゾンネンハイムの中を歩くことはできるが、外に出て行くのは怖いという方も少なからずいらっしゃいます。高齢になればなるほど、また高層階になればなるほど、閉じこもる率が高くなります。高齢者が年金を貰うなり「知り合いに会える、家にいてもすることがない」といった理由でパチンコに行くというニュースが話題になりましたが、自治会としては、ゾンネンハイムの中に誰でも気軽に立ち寄れる場所、友だち作りや情報交換ができる場所を設置できれば、と思っております。